付加物の観点から見た家屋画法の研究
― 付加物の種類や在りようを中心に ―

三　溝　雄　史

Ⅰ．問題と目的

1. 家屋画法の先行研究

用紙に「家を描いて下さい」と教示する家屋画法は、描画法であるHTP（House-Tree-Person）法の中の1アイテムとして、Buck（1948）により考案された。その後日本でも、高橋（1974）らによりHTP法（HTPテスト）やS-HTP法の中の1アイテムとして家屋画は用いられてきたが、HTP法やS-HTP法の日本での使用の展開については、三上（1995）により詳しく述べられている。

さらに、「家」は、HTP法やS-HTP法の中の1アイテムとして「木」や「人」とともに描かれることが多く（HTP法では家・木・人は別々の用紙に、S-HTP法では家・木・人は同じ用紙に描かれる）、家屋画法として単独で用いられることはほとんどなかった。これは高橋（1974）が、描画の課題によって表現されるパーソナリティの局面には差異があり、「家屋画」、「樹木画」、「人物画」といった単一課題の描画テストよりも、HTPテストの方がパーソナリティの理解（診断）には有効である、と指摘している点が大きいと考えられる。

次に、家屋画に表わされる内的世界として、家庭や家族に対する意識的ならびに無意識的態度が反映される、と考えられていた（Buck・1948）。高橋（1974）は、自分が成長してきた家庭状況を表わし、家庭状況や家族関係をどのように認知し、どのような感情をもち、どのような態度を有しているか、また、自己像と、空想や現実に対してもつ関係、といった点を取り上げている。すなわち、家屋画には、描き手が自分の家族や家庭、さらには、自分自身、また、現実や空想とどのように向き合うのかというテーマが表れることが中心であった。

しかしその後の変遷として、井上（1979・1984）は「家を描いて下さい」と言ってオモテを描いてもらい、仕上がったら、「ではその紙を裏返して下さい。今度は、今表に描いた家の反対側、裏側をそこに描いて下さい」と言いウラを描かせ、オモテとウラの両面から家のたたずまいを眺める「家屋画二面法」を考案し、新たに家屋画を単独で用いることの意義を見出した。

井上（1979･1984）は、Bachelard, G.（1957）やBollnow, O.F.（1963）の考察を援用しながら、家は安心して棲まえる空間を外界から切り取って庇護と防護を保障する場であり、空間の中の自分のすべての関係を関連づけていく中心であり、基地であり、基本的安全感をはぐくむ基盤であると考え、こうした意味でのありようを反映するものとして、家屋のイメージを捉え直した。家が外界に対して十分に護られているのか、破損や崩壊を被ってはいないのか、また逆に壁や塀をめぐらし防護性を強めて内に閉じこもっているのか、あるいは出入りのしやすさの点から外に向かってどの程度開かれている

のか、また閉じられているのか、もしくは外からの侵入されやすさ、見すかされやすさはどうか、といった観点を重視した。そして、これを「開かれ（見すかされ）－閉じられ［空間］」と名付け、家屋の様相を、自我境界（ego-boundary）の在りようの反映であると考え、家屋画における分析指標として開指標と閉指標から成る boundary 指標を考案した（表 1）。さらに、ロールシャッハ・テストにおける自我境界得点と家屋画の指標との関連性について、統合失調症者を対象として検討を行った。その結果、ロールシャッハ・テストで Barrier（防壁性）スコア優位な者は、家屋画二面法の「オモテ＋ウラ得点」で閉スコアが優位となり、一方で、Penetration（浸透性）スコアないし Fluidity（流動性）スコアが優位な者は、開スコアが優位になるという対応性を示した。

この井上（1984）による統合失調症者への家屋画二面法の導入には、山中（1976）の見解が参考とされている。山中は、自閉症治療の中で自発的になされた絵画や箱庭表現を通して、「彼らは表面的には対人無関心とか、全く感情表現のない能面様の表情をしていても、実は他者の表情の裏に潜む内心の微妙な動きを読みとる能力が備わっているかと思われるほどである」というオモテとウラの二面構造の存在を指摘しているが、井上はこの見解を取り入れ、オモテとウラの二分法的視点を導入することが統合失調症者の在り方を理解する一助になるのではないかと考えたのである。その結果、心理検査的側面から見た特徴として、第 1 に「新しい変化はまずウラに現れる。そしてウラでの動きは近い将来オモテに波及していく可能性が高い。つまり当面の変化方向性を予測させる」、第 2 に「開かれ－閉じられの諸様相をオモテ、ウラから眺めることにより、入院および予後についての一助言を提供しうる」という 2 つの特徴を見出した。

家屋画と boundary との関連については、その後、徳田（1982a、1982b、2007）や山森（1997・2003）、古野（2005）も、家屋画法を用いて検討を行っている。その中で徳田（1982a）は、井上（1979・1984）の家屋画二面法における“ウラ”の有効性を認めつつも、「家は内部空間があって初めて家たり得るのであり、いかに強固な壁に守られていても内部が居心地よくしつらえていなければ“安らぎの空間”（Bollnow, O.F.）としての意味は持たない」との観点から、室内

表 1　井上（1979）による家屋画の分析指標

開指標	閉指標
1　とびらあり	1　とびらなし
2　とびらが家の右側面	2　まどなし
3　とびら開放	3　ある階にまどのない家
4　まどあり	4　まどに「十字」以上のサン
5　まど開放	5　まどに格子・カギ
6　とびらやまどを欠いた開口部	6　カーテンあり
7　縁側・ベランダ・テラス	7　カーテンしまる
8　エントツから煙が出る	8　雨戸あり
9　家の中を描き込む	9　雨戸しまる
10　開口部面積比 1/2 以上	10　壁の強調
11　道	11　開口部面積比 1/6 以下
12　透明	12　囲い・塀
13　破損・崩壊	13　門しまる
14　正面以外右側面のみ（右近景）	14　植え込み

画法を考案した。室内画法とは、家屋画を描いた後で、別の用紙にその家の内部である「部屋」を描くものである。徳田（1982a）は、井上（1979）が設定した家屋画の boundary 指標を参考にして、室内画法においても、家の内部空間の“境界”の描き方から描き手の自我境界の在りようを捉えるために、開指標と閉指標から成る分析指標を考案した。そして、Anorexia Nervosa 群とその対照群である青年期男女に家屋画法と室内画法を実施した。井上による家屋画の boundary 指標と、徳田による室内画の boundary 指標を用いた結果、青年期男女では、男性では家屋画で＜開＞に、室内画で＜閉＞に傾くのに対して、女性では逆に家屋画で＜閉＞に、室内画で＜開＞に傾くことがわかり、男女間に違いが見られることが示された。

山森（2003）は、Bollnow, O.F.（1963）の、人間の家屋への関係はその人の世界全体への関係を表わすという見解や、井上（1979）の考察を踏まえて、家屋画法をバセドウ病患者に実施しているが、これは、バセドウ病患者がどのような生活空間を生き、どのような体験世界を持っているのかを理解する手がかりを、家屋画から得るためであった。そして、バセドウ病患者と一般群である成人女性に家屋画法と室内画法を実施し、家屋画法では、井上（1979）の boundary 指標に修正を加えて分析指標を設定し（表 2）、検討を行った。その結果、バセドウ病患者の家屋画は、自己と環境との間に緩衝地帯を持ったり、あるいは複数の層で取り囲むことによって自己世界を守ろうとすることが見られないが、その代わり、防護性の薄さを補うかのように家屋自体の閉口部を閉鎖的にし、そのような形で自己世界を守っている。しかし、その分外界から後退し、外界との交流に困難をきたしている、といったことが示された。また、バセドウ病患者では、統合失調症者の描画のような奇異な外観は呈さず、簡素でステレオタイプ的であることが特徴であるが、これは、ステレオタイプ性に固執することによって、あるいは固執できることによって、自己を防衛している、とも述べている。

このように家屋画からは、描き手の家庭や家族の状況、自己像、現実や空想との関係だけではなく、生活の在りよう、安全としての基地、さらには自我境界や防衛の在り方といった様相が反映されるということがわかってきたのである。

2. 家屋画に描かれる付加物の定義

井上（1979）や山森（2003）が用いた家屋画法の分析指標を見ると、「壁」、「窓」、「扉」、「煙

表 2　山森（2003）による家屋画の分析指標

開指標	閉指標
1　窓・扉の開放	1　扉なし
2　窓や扉を欠いた開口部	2　窓なし
3　一般的な窓（サン一つ）	3　扉より高い窓
4　縁側・ベランダ	4　窓に「十字」以上のサン
5　煙突から煙	5　窓の外に柵
6　家の中を描き込む	6　窓にカーテン
7　開口部面積 1/2 以上	7　カーテン閉まる
8　道	8　窓に影
9　透明	9　壁の強調
10　破損・崩壊	10　開口部面積 1/6 以下
	11　囲い・塀
	12　植え込み

突」、「縁側」、「ベランダ」、「道」、「囲い」、「塀」、「植え込み」といったアイテムが、指標として取り上げられているのが特徴である。また、山森（2003）は、家屋画に描かれる「植え込み」というアイテムを取り上げ、「植え込み」は、単なる外界からの守りの機能のみならず、緩衝地帯を持つことによって自身の衝動を抑え、環境に柔軟に接していく能力と関連しており、家屋そのものの閉鎖性を高めたり外界との交流を不自由にすることなく、家屋の防護性を高めるものとして、「窓の外に柵」や「囲い・塀」にも通じるものがある、と指摘している。

このように家屋画法では、家屋画に描かれる個々のアイテムが、家屋画を捉えていく上で重要な役割を果たしているといえるが、アイテムにはどのようなものがあるのか、画面の中にどのように描かれ、どんな役割を果たしているのか、といったアイテムに関する系統立った研究は、これまで行われていないのが現状である。また、アイテムとは、家なのか、付加物なのかといったアイテムの位置付けに関しても、明確な基準は打ち出されていない。そこで本研究では、家屋画に描かれるアイテムを、家と付加物という観点から捉え直して考えてみたい。

家屋画に描かれる付加物については、何をもって付加物とするのかは、これまではっきりと定義がなされていないが、Buck（1948）は、家の必須部分として、「屋根、壁、とびら、窓、煙突」の5つを挙げている。煙突に関して高橋は、わが国で煙突のある家を描く者は20％くらいであり、家屋画の必須部分とはいえないとして、「屋根、壁、とびら、窓」の4つを、家屋画を構成する必須部分としている（高橋・1974）。高橋は、必須部分とそうでない部分とに分けて家屋画を捉えており、必須部分以外のものとして、煙突と煙、へいとみぞ、茂みと木と花、道と山、へや、その他の付加物（ガレージ、自動車、物置き、屋根のアンテナ、避雷針、風見、玄関の表札、呼び鈴、郵便箱といった家屋自身の付属物）を挙げている。また三上（1995）は、S-HTP法に描かれる家の付加物や付属物として、屋根の模様、煙突、煙突の煙、家のカーテン、アンテナ、犬小屋、呼び鈴を挙げている。このことから、家屋画法を用いた先行研究では、家屋画を構成する必須部分とそうでない部分という区分がなされている。

描画法の研究において、付加物自体が研究の大きなテーマとして取り上げられることは少ない。しかしここ最近、描画法において付加物自体を1つのテーマとして取り上げた研究が見られるようになってきている。佐々木（2008）は、風景構成法における付加アイテムの機能について取り上げ、付加段階は10のアイテムを描く段階と彩色段階とを繋ぐ機能があり、仮にこの段階が風景構成法に無いとすると、線描という構成的プロセスから彩色という投影的プロセス（中井・1971）に急激に切り替わることになり、相当息苦しい技法になることから、付加アイテムの段階が風景構成法の技法としての豊かさの一端を担保している、と示唆している。また森・高木（2008）は、S-HTP法における付加物に着目し、付加物は異なる課題を1枚の絵として統合するために必要なものであり、内的世界の豊かさを象徴するものの1つと考えている。さらに、児童養護施設に在籍する学童期の児童のS-HTP法を取り上げ、付加物の出現率は、健常群の児童では9割に達するのに対して、4割弱という非常に低い出現率であり、これは、大人から言われた教示をそのまま推敲せずに課題を行う傾向が強く、制限されることが重なり自発的な行動が抑えられてきたことによる、無力感の影響が大きいことがうかがわれる、と述べている。

描画の中に描かれる付加物は、これまではあ

くまでも、付加的な要素として見られてきたが、佐々木（2008）や森・高木（2008）の研究に見られるように、付加物自体がもつ意味や機能が見直され、重要視されてきている。

家屋画法における付加物の定義に戻ると、高橋（1974）や三上（1995）による、家の必須部分とそうでない部分という区分の中で、必須でない部分が、そのまま付加物の定義となるのではないかと考えられる。すなわち、家を構成する「屋根、壁、とびら、窓」の４つを必須部分とし、この４つ以外のアイテムが、付加物ということになる。すなわち、付加物は、「道や植え込みなど家の外に描かれるもの」、「煙突やベランダなど家に付属しているもの」、「カーテンや花など家の中に描かれるもの」などに分けることができ、付加物とは、これらを合わせたものであると定義することができる。

以上述べてきたことを踏まえると、家屋画に描かれるアイテムの系統だった研究を行うために、本研究では、アイテムを、家と付加物という観点から捉え直すことが有用ではないかと考える。なお以下、「家」という表現には、家の必須部分という意味で用いることにする。

3. 家屋画に描かれる付加物の在りよう

描き手は、用紙と鉛筆を１本差し出され、「家を１軒思い浮かべて、どんな家でも結構ですので、家の絵を描いて下さい」と家屋画法の教示をされるのであるが、ではそこから一体、描き手の心の中にはどういった動きが生じるのであろうか。教示の中心は、「家を１軒描いて下さい」ということであるので、１軒の家という、１アイテムのみを描くという動きが、まず描き手の心の中で生じるはずである。その際に、家の必須部分である「屋根、壁、とびら、窓」を、大部分の描き手は描き出す。実際、高橋（1974）や三上（1995）の分析資料からも、必須部分の出現率は７割以上にものぼっている。さらに三溝（2005）は、遠近法という観点と結び付けて家屋画法の研究を行ったが、実際、家屋画の中には、必須部分のある家だけではなく、さまざまな付加物が、必須部分の家とともに描かれている。

例えば図１は、家の周りに、山、木、砂場、花、犬と犬小屋などの付加物が描き加えられた家屋画であるが（三溝・2005）、これは、家の外に付加物が描かれた家屋画である。家の外に付加物を描く場合、描き手の心の中では、家の周囲に付加物をどのように配置すればよいのか、家と付加物との折り合いをどのようにつければよいのか、といったことを考える必要が出てくるのではないだろうか。そうなると、１アイテムのみを描くという行為から、家と付加物を描くという行為へと変わっていき、これは描画法の中では風景構成法やS-HTP法のように、いくつかのアイテムを画面の中に描き、構成してい

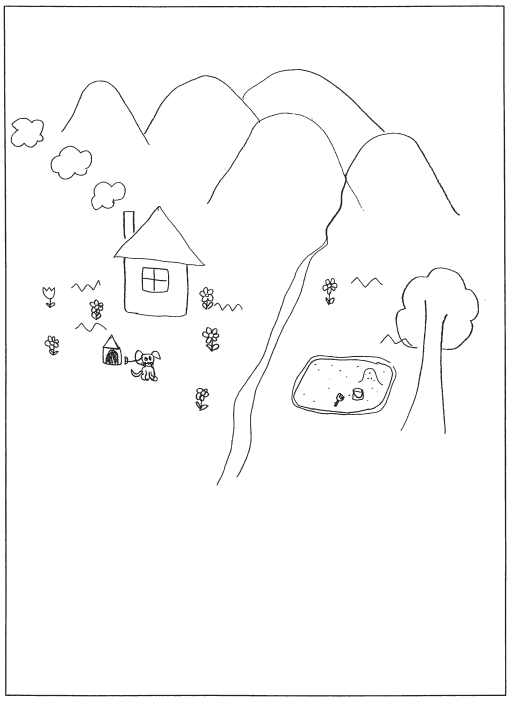

図１　付加物が描かれた家屋画の例①（三溝（2005）より）

くという、構成プロセスへと変化していくといえる。そこでは、家を1軒描くことだけでは直面することのなかった、新たな課題に描き手は直面することになる。家の外に付加物を描くということは、家と付加物を画面の中にどのように位置付けていくかということである。言い換えれば、家と付加物とをどのように関係付けていくかということであり、ここに、家と付加物との関係性というテーマが浮上してくるといえる。家と家の外に描かれた付加物との関係性は、画面の中でアイテムをどのように配置し構成するのかといった視覚的・物理的な要因だけではなく、描き手の心理的な要因も関与しているのではないかということが仮説として挙げられる。

次に、例えば図2は、家の窓にカーテンや花が描き加えられたり、屋根に模様が描かれている家屋画であるが（三溝・2005）、これは、家の中や家に付属して付加物が描かれた家屋画である。家の中や家に付属する付加物を描くということは、家自体をどのようにまとまりをつけて描くかという、家という1アイテム内での関係性のテーマが、ここでは浮上してくる。ここにも、描き手の心の動きの関与が推測される。

さらに図3は、家の外に車、門、花、犬と犬小屋、雲、太陽が、家の内部の窓にカーテンが描かれ、ベランダが付属している家屋画であるが（三溝・2005）、家の外に付加物を描き、かつ、家の中や家に付属した付加物も描かれた家屋画である。この場合は、家と周囲の付加物との関係性と、家という1アイテム内での関係性の両者がともに、家屋画の中にテーマとして見られる。

そこで本研究では、このような家と付加物の関係性という問題意識を併せもちながら、まず付加物がどこにどのように描かれるのかにより、家屋画の分類を行う（これを「付加物の在りよう」と呼ぶことにする）。そして次に、家屋画における付加物の在りようと心理的要因との関係について検討することを目的とする。その際に、男女間の違いを中心に検討していく。これは、高橋（1974）がHTPテストの基礎資料を性別ごとに提示していたり、三上（1995）のS-HTP法の発達的研究においても、男女差の比較が行われていること、さらに、徳田（1982a）による家屋画法では、青年期男女に実施し男女のboundary指標の違いについて論じられているといったように、これまでの家屋画法の研究では、男女差の検討が重要視されてきているからである。

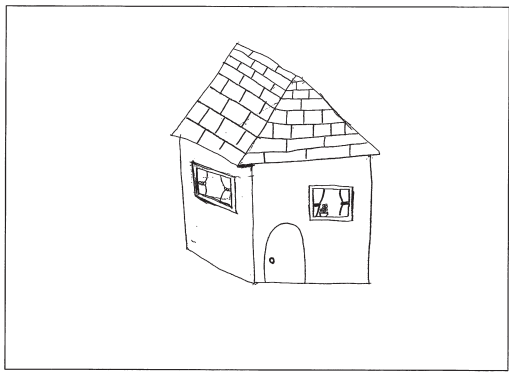

図2　付加物が描かれた家屋画の例②（三溝（2005）より）

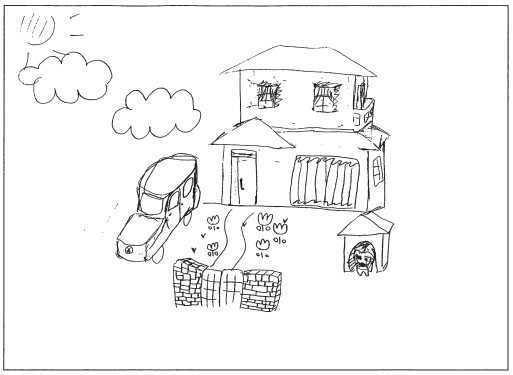

図3　付加物が描かれた家屋画の例③（三溝（2005）より）

また、心理的要因に関してはYG性格検査を用い、描き手のパーソナリティの特徴と付加物の在りようとの関連について探っていきたい。

YG 性格検査は、特性論、類型論を背景にした質問紙法の性格検査である。性格特性の構成としては、12 の尺度と 6 つの因子群から成り立っている。YG 性格検査は、尺度レベルや類型レベルなど多様な解釈が可能であり、先行研究でも多用されており、投映法との比較検討も行われていることから（皆藤・1994 など）、本研究でも使用することにする。

対象に関しては、大学生と看護学生とする。大学生と看護学生では、ともに高校卒業以降の時期であり、比較的年齢の範囲が近い集団であるため、1 つの群として取り上げた。

Ⅱ．方法

1. 被験者と調査時期

大学生・看護学生 144 名（大学生 71 名、看護学生 73 名）。性別は男性 51 名、女性 93 名。年齢は 18 ～ 36 歳（男性 19 ～ 32 歳、女性 18 ～ 36 歳）。平均年齢は 20.9 歳（SD 3.88）、うち男性は 20.0 歳（SD 2.36）、女性は 21.5 歳（SD 4.43））。2005 年 11 月、2006 年 8 月に調査を実施した。

2. 手続き

YG 性格検査と家屋画法を集団法で実施。家屋画法は、4B の鉛筆と A4 判の用紙を渡し、消しゴムの使用を可とし、「家を 1 軒思い浮かべて、どんな家でも結構ですので、家の絵を描いて下さい」と教示した。順序は、YG 性格検査を行った後で、家屋画法を実施した。

3. 分析方法

①家屋画に描かれる付加物の種類を挙げ、全体と男女ごとの出現度数（相対度数）を抽出した。また、男女間における付加物の種類の出現の比較を行うために χ^2 検定を行った。

②付加物の在りようによる家屋画の分類

描かれる付加物の在りようにより、家屋画を＜付加物（なし）＞、＜付加物（内）＞、＜付加物（外）＞、＜付加物（両）＞の 4 つに分類し、それぞれにおける全体と男女ごとの出現度数（相対度数）を抽出した。

＜付加物（なし）＞とは、家を構成する「屋根、壁、とびら、窓」の 4 つの必須部分のいずれか、もしくはすべてが描かれているが、この 4 つ以外のアイテムが描かれていない家屋画である。＜付加物（内）＞は、窓のカーテンや花の活けてある花瓶など家の中に付加物が描かれたり、煙突やベランダなどの家に付加物が付属して描かれた家屋画である。家の中に付加物が描かれる家屋画と、家に付加物が付属して描かれる家屋画を 1 つの分類としたのは、どちらの場合も家自体に付加物が属しており、家の内部に付加物をどのように描くのかという点で共通していると考えたからである。＜付加物（外）＞は、山、木、動物など、家の外に付加物が描かれた家屋画である。＜付加物（両）＞は、家の中や家に付属した付加物を描き、かつ家の外にも付加物が描かれた家屋画である。

③＜付加物（内）＞、＜付加物（外）＞、＜付加物（両）＞において描かれる付加物の種類をそれぞれ挙げ、全体と男女ごとの出現度数（相対度数）を抽出した。

④付加物の在りようと描き手のパーソナリティの特徴との関連を検討するために、＜付加物（なし）＞、＜付加物（内）＞、＜付加物（外）＞、＜付加物（両）＞のそれぞれにおいて、男女間で YG 性格検査尺度得点の平均値の比較を行った（t 検定）。

Ⅲ．結果と考察

1．家屋画に描かれる付加物の種類

家屋画に描かれた付加物の種類の出現度数（相対度数）と男女間の有意差は、表3の通りである。描かれた付加物は43種類（7つは判別不能）であったが、こうして列挙してみると、「家を1軒描いて下さい」いうだけの教示であるにもかかわらず、実に多種多様な付加物が描かれていることがわかる。

そこで、高橋（1974）によるHTPテストの基礎資料や、三上（1995）によるS-HTP法の分析項目ごとの出現率を中心に、本研究の結果と比較しながら家屋画に描かれる付加物の特徴について論じていく。

(1) 付加物の出現率

種類別では、最も多く描かれた付加物は、「屋根の模様」であった（全体38.1%）。三上の分析によると、本研究の被験者と比較的年齢が近いと思われる大学生（1～4年生）では41.7%が「屋根の模様」を描いており、本研究の結果とほぼ一致している。「屋根の模様」に関して三上は、描かれ方は様々であり、極めて雑であったり、几帳面であったり、さらに強迫的であったりというように、描き方にもパーソナリティの特徴が表れると述べているが、「屋根の模様」では、有無だけではなく、どのように描かれているのかといった描かれ方についても見ていくことが必要であるといえる。

「屋根の模様」の次に多く描かれた付加物は、「煙突」であった（全体31.3%、男性21.6%、女性36.6%）。「煙突」に関して高橋は、最も親密な人間関係である家族のあたたかさや男根を象徴する、と述べている。例えばかわら屋根の和風平屋にれんが造りの大きい煙突をかく者は、男性の性象徴への関心か家族のあたたかさへの関心を示したり、自己の男らしさを誇示しようという欲求や露出傾向を示したりする可能性が強い。これと反対に、単に長方形や直線でかき、他の部分のように修飾していない煙突、透き通った煙突や小さい煙突は、去勢不安や性についての無力感を表すことが多い（高橋）。一方で三上は、S-HTP法ではどの発達段階でも女子に多く見られ、家の暖かさを象徴するものとして描かれている場合が多い、と述べている。このように「煙突」については、男女の違いを考慮に入れて見ていく必要があるだろう。さらに高橋は、煙突が描かれている場合、その強調される程度や他の部分とのバランス、煙の描かれ方を見て解釈していく必要があると指摘している。「屋根の模様」と同様に「煙突」においても、有無や男女差だけではなく、こういった点についても吟味しなければならないことは、付加物の特徴であるといえる。

3番目に出現率が多かったのは、「花（花壇・プランターを含む）」であった（全体26.3%、男性3.9%、女性38.7%）。三上のS-HTP法で描かれる「草花」の出現率は、全体10.6%、男性5.2%、女性21.9%であった。家屋画法を単独で行った本研究の結果と直接比較することはできないが、女性の出現率が多いということでは共通しており、家屋画法でもS-HTP法でも、「花」は女性に多く描かれる付加物であるといえる。

以下、全体の出現率が20%を越えている付加物は、順に「木・植物・草・植物」（全体22.2%、男性5.9%、女性31.2%）、「窓のカーテン」（全体20.1%、男性3.9%、女性29.0%）、「ベランダ」（全体14.6%、男性9.8%、女性17.2%）、「道」（全体14.6%、男性3.9%、女性20.4%）であり、さらに様々な付加物が見られる。家屋画法を単独で行った場合の付加物の出現頻度については、先行研究がないために比較することはできない。しかし、家屋画に描かれる付加物の

表３　家屋画に描かれる付加物の種類の出現度数（相対度数）と男女間の有意差

付加物の種類	出現度数（相対度数）			男女間の有意差
	全体 (N=144)	男性 (N=51)	女性 (N=93)	
屋根の模様	55 (38.1)	10 (19.6)	45 (48.4)	**
煙突	45 (31.3)	11 (21.6)	34 (36.6)	n.s.
花（花壇・プランターを含む）	38 (26.3)	1 (3.9)	36 (38.7)	***
木・植木・草・植物	32 (22.2)	3 (5.9)	29 (31.2)	***
窓のカーテン	29 (20.1)	2 (3.9)	27 (29.0)	***
ベランダ	21 (14.6)	5 (9.8)	16 (17.2)	n.s.
道	21 (14.6)	2 (3.9)	19 (20.4)	**
動物（犬小屋を含む）	18 (12.5)	3 (5.9)	15 (16.1)	n.s.
郵便ポスト	17 (11.8)	2 (3.9)	15 (16.1)	*
敷石・石段・階段・段差	15 (10.4)	7 (13.7)	8 (8.6)	n.s.
門・柵	14 (9.7)	5 (9.8)	9 (9.7)	n.s.
乗り物（車・バイク・自転車・飛行機）	14 (9.7)	3 (5.9)	11 (11.8)	n.s.
太陽	10 (6.9)	0 (0)	10 (10.8)	*
人間	6 (4.2)	0 (0)	6 (6.5)	n.s.
家具（机・椅子・テレビ・ソファー・電球）	5 (3.5)	0 (0)	5 (5.4)	n.s.
雲	5 (3.5)	0 (0)	5 (5.4)	n.s.
インターホン	4 (2.8)	1 (2.0)	3 (3.2)	n.s.
喚起・排気口	4 (2.8)	0 (0)	4 (4.3)	n.s.
家・物置・小屋	4 (2.8)	0 (0)	4 (4.3)	n.s.
山	4 (2.8)	1 (2.0)	3 (3.2)	n.s.
アンテナ	3 (2.1)	3 (5.9)	0 (0)	*
縁側	3 (2.1)	1 (2.0)	2 (2.2)	n.s.
洗濯物・物干し	3 (2.1)	0 (0)	3 (3.2)	n.s.
遊具（砂場・滑り台・ブランコ）	3 (2.1)	0 (0)	3 (3.2)	n.s.
外灯	2 (1.4)	0 (0)	2 (2.2)	n.s.
表札	2 (1.4)	0 (0)	2 (2.2)	n.s.
風見鶏	2 (1.4)	0 (0)	2 (2.2)	n.s.
雨どい	2 (1.4)	1 (2.0)	1 (1.1)	n.s.
靴	2 (1.4)	1 (2.0)	1 (1.1)	n.s.
川	2 (1.4)	1 (2.0)	1 (1.1)	n.s.
国旗	2 (1.4)	2 (3.9)	0 (0)	n.s.
果物	2 (1.4)	1 (2.0)	1 (1.1)	n.s.
置物	1 (0.7)	1 (2.0)	0 (0)	n.s.
傘	1 (0.7)	0 (0)	1 (1.1)	n.s.
テント	1 (0.7)	1 (2.0)	0 (0)	n.s.
池（橋付き）	1 (0.7)	1 (2.0)	0 (0)	n.s.
湖	1 (0.7)	0 (0)	1 (1.1)	n.s.
魚	1 (0.7)	1 (2.0)	0 (0)	n.s.
岩	1 (0.7)	1 (2.0)	0 (0)	n.s.
月・星	1 (0.7)	0 (0)	1 (1.1)	n.s.
アイスクリーム	1 (0.7)	0 (0)	1 (1.1)	n.s.
クリスマスツリー	1 (0.7)	0 (0)	1 (1.1)	n.s.
漫画のキャラクター（アンパンマン）	1 (0.7)	1 (2.0)	0 (0)	n.s.
判別不能	7 (4.8)	4 (7.8)	3 (3.2)	n.s.

※ ***$p<0.001$, ** $p<0.01$, *$p<0.05$

※ 5 以下のセルを含む場合は Fisher の直接法を用いた。

種類を挙げたことは、今後の家屋画法の付加物に関する研究に役立てるための資料として意味があるのではないかと考えられ、さらなる研究が望まれる。

では次に、男女間における付加物の出現の異同について検討を行う。

(2) 男女間で描かれる付加物の比較

男女の間で有意差が見られた付加物は、「屋根の模様」($\chi^2(1, N=144) = 11.556, p < .01$)、「花(花壇・プランターを含む)」($\chi^2(1, N=144) = 20.520, p < .001$)、「木・植木・草・植物」($\chi^2(1, N=144) = 12.198, p < .001$)、「窓のカーテン」($\chi^2(1, N=144) = 12.913, p < .01$)、「道」($\chi^2(1, N=144) = 7.206, p < .01$)、「郵便ポスト」($\chi^2(1, N=144) = 4.714, p < .05$)、「太陽」($\chi^2(1, N=144) = 5.893, p < .05$)、「アンテナ」($\chi^2(1, N=144) = 5.587, p < .05$)であった。その中で、「アンテナ」のみ男性の出現率が高く、それ以外の付加物では、女性の出現率が高かった。

まず、「屋根の模様」では、三上の調査では男女の間でほとんど違いが見られなかったのに対して(男性40.7%、女性43.8%)、本研究では男性が少なく、女性が多い結果となった(男性19.6%、女性48.4%)。このことについては明確なことは言えないが、家屋画法とS-HTP法といった方法自体の違いや、対象集団の特質などが男女差に影響を及ぼしている可能性があり、今後の検討が必要であると考えられる。

「花(花壇・プランターを含む)」に関しては先ほども述べたが、「木・植木・草・植物」(全体22.2%、男性5.9%、女性31.2%)と同様に女性の出現率が高く、「花」や「木・植木・草・植物」は女性に親しみやすい付加物であるといえる。

「窓のカーテン」(全体20.1%、男性3.9%、女性29.0%)においても女性の出現率が高かったが、高橋や三上の調査でも女性が窓にカーテンを描くことが多く、「窓のカーテン」は女性度を表すとの指摘がある。また「窓のカーテン」が意味することに関しては、カーテンが窓をどのように覆っているのかによって意味が変わってくるとされている。日よけやカーテンがあって、窓がそれによっておおわれているのは、他人と交渉することをきらい、強迫傾向や猜疑心から、引きこもりがちになっている人が描くことが多い(高橋)。日よけやカーテンが窓を完全に隠していない場合は、自分と外界の関係についてやや不安感を抱きながらも、通常は自分を適度に統制し、如才なくふるまっていける人であるといえる(高橋)。両脇にとめられたかたちで描かれるカーテンは、家に暖かさや生活感を与えている印象が強い(三上)。また、井上(1979)による家屋画の分析指標であるboundary指標でも、「カーテンあり」、「カーテンしまる」が閉指標として挙げられており、自我境界との関連を検討する際にも用いられている。徳田(1982a)は、家屋画における(窓の)カーテンは、家の内側にあって、敢えて言えば描かずにすませられるものをわざわざ描いたのであり、カーテンを描くことに重要な意味がある、と述べている。これらのことから「窓のカーテン」は、家屋画法に描かれる付加物の中でも、多様な観点からの解釈が可能な付加物であるといえる。

「道」(全体14.6%、男性3.9%、女性20.4%)と「太陽」(全体6.9%、男性0%、女性19.0%)も、女性に多く描かれていた。三上はS-HTP法における課題以外の付加物として、「道」(全体26.1%、男性23.7%、女性21.3%)と「太陽」(全体9.5%、男性12.6%、女性3.1%)の出現率を挙げている。ここでも、家屋画法とS-HTP法とを直接比較することは慎重でなければならないが、本研究の被験者では、男性が描いた付加物の出現率が低い傾向があり、年齢の比較的近

い集団であっても、対象集団の違いが影響を及ぼしている可能性があり、このことは今後の課題として残された。「道」と「太陽」については、付加物の在りようのところで、再度論じる。

「郵便ポスト」（全体 11.7%、男性 3.9%、女性 20.4%）も、女性に多く描かれていた。「郵便ポスト」に関しては、先行研究の中であまり触れられておらず比較することはできないが、“他者からの手紙を受け取る”ための「郵便ポスト」を敢えて描くということには、外界とのつながりを示す何らかの意味合いがあるのかもしれない。

「アンテナ」（全体 2.1%、男性 5.9%、女性 0%）は、有意差のあった付加物の中で男性が多く描いた唯一の付加物であった。三上は、「アンテナ」は一貫して男性に多く描かれる付属物であり、外界への関心の広さ、あるいは機械類への関心の深さを示す特徴かもしれないと述べており、本研究の結果とも一致している。

以上、家屋画に描かれる付加物の種類について検討してきたが、付加物にはどういったものが描かれるのかという有無や種類でだけではなく、どのように描かれているのかという描かれ方にまで着目する必要があることがわかった。また、高橋や三上が、付加物が強調して描かれている場合は、描画後の質問（PDI）によって何らかの特別な意味があるか否かを確認しておく必要があると指摘しているように、描き手個人に即して捉えていくという観点も重要である。

このように家屋画法では、家だけではなく、付加物のさまざまな意味をも含む全体として家屋画を捉えていく必要性があることが示唆された。

2. 家屋画に描かれる付加物の在りよう

(1) 付加物の在りようによる家屋画の分類と出現割合

付加物の在りように着目して家屋画を分類すると、それぞれの出現度数（相対度数）は表 4 のようになった。また、それぞれの付加物の在りようの家屋画の一例を、図 4（＜付加物（なし）＞）、図 5（＜付加物（内）＞）、図 6（＜

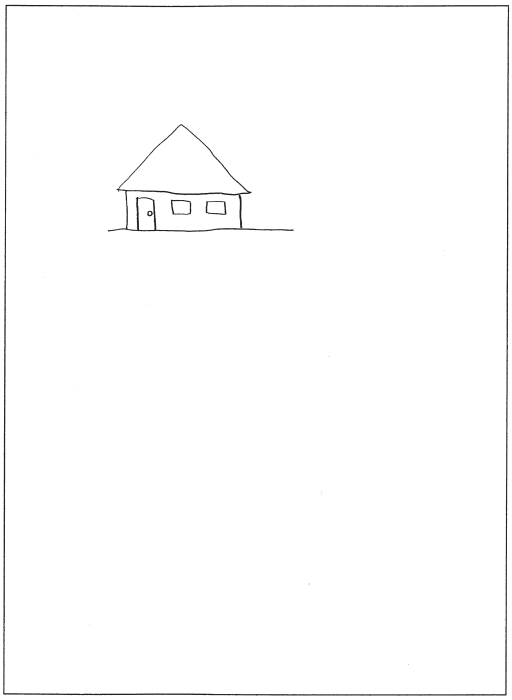

図 4 〈付加物（なし）〉の家屋図

表 4　家屋画に描かれる付加物の在りようによる出現度数（相対度数）

付加物の在りよう	出現度数（相対度数）		
	全体	男性	女性
＜付加物（なし）＞	23 (16.0)	15 (29.4)	8 (8.6)
＜付加物（内）＞	54 (37.5)	22 (43.1)	32 (34.4)
＜付加物（外）＞	8 (5.5)	5 (9.8)	3 (3.2)
＜付加物（両）＞	58 (40.3)	8 (15.7)	50 (53.8)
判別不能	1 (0.7)	1 (2.0)	0 (0)
計	144 (100)	51 (100)	93 (100)

付加物（外）＞）、図7（＜付加物（両）＞）に挙げた。

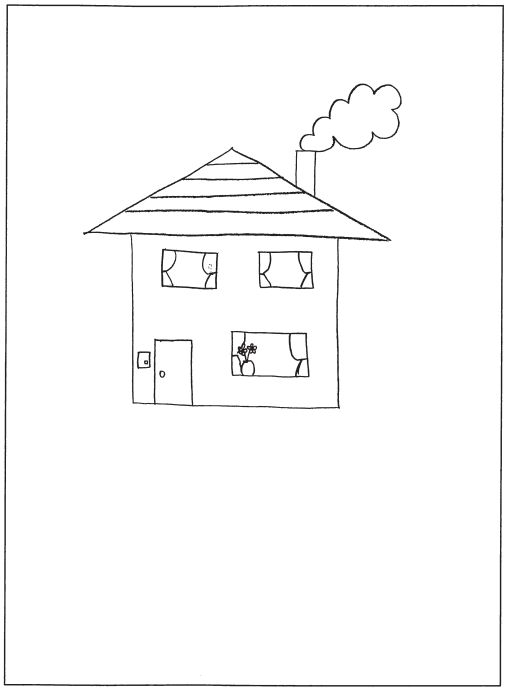

図5 〈付加物（内）〉の家屋図

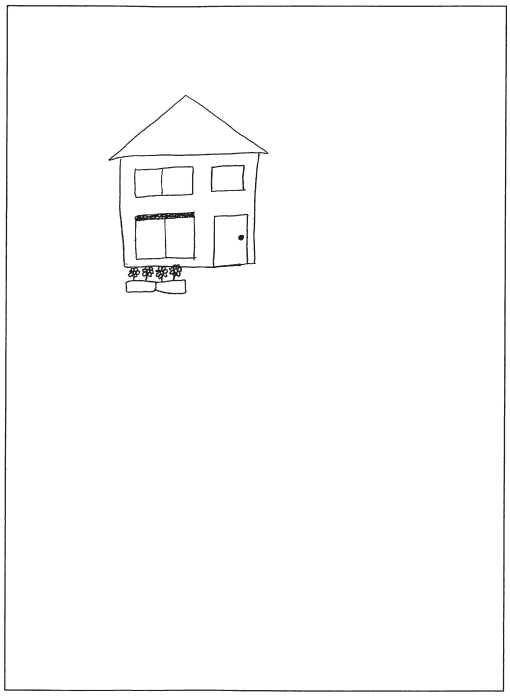

図6 〈付加物（外）〉の家屋図

全体の出現割合は、＜付加物（両）＞が最も多く（40.3%）、約4割の描き手が家の外部にも内部にも付加物を描いていることが示された。次に＜付加物（内）＞は37.5%、続いて、＜付加物（なし）＞は16.0%、＜付加物（外）＞は5.5%であった。＜付加物（内）＞と＜付加物（外）＞の家屋画では、＜付加物（内）＞は、＜付加物（外）＞よりも約7倍多く見られ、家の外部と内部を比べた場合、内部のアイテムの方が多く描かれることがわかった。家を1軒描くようにという教示は、家の内部に関心を向けやすく、家という1アイテム内での関係性のテーマに、描き手はより取り組んでいるといえる。

男女間では、付加物を描かない男性が約3割（29.4%）も見られたのに対して、女性では約1割弱（8.6%）であった。また、付加物を家の外にも内部にも描く女性が約5割以上（53.8%）にものぼったが、一方で男性は女性の約3分の1（15.7%）であった。これらのことから、本研究で対象とした大学生と看護学生においては、男性よりも女性の方が家の必須部分だけではなく、付加物も描く傾向があるといえる。

本研究では以上のような結果となったが、付加物の在りようによる出現割合を調べた先行研究は行われていないため、異なる対象集団と比較することは現時点ではできず、今後こういった観点からの比較検討が必要である。

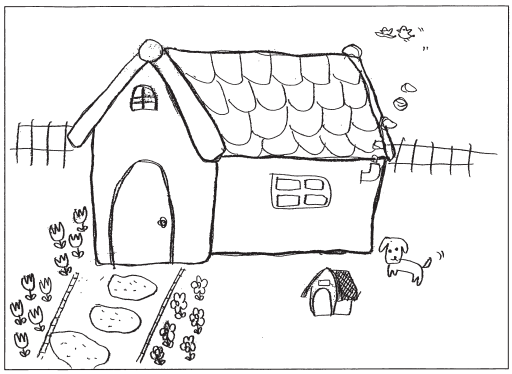

図7 〈付加物（両）〉の家屋図

(2) 付加物の在りようごとに見られる付加物の種類

＜付加物（内）＞（N=54）の家屋画を取り上げ、＜付加物（内）＞に描かれた付加物の種類の出現度数（相対度数）は表５のようになった。また同様に、＜付加物（外）＞（N=8）、＜付加物（両）＞（N=58）では、表6､7の通りであった。さらに、＜付加物（両）＞では、家の中や家に付属して描かれる付加物（付加物（内））と、家の外に描かれる付加物（付加物（外））の出現度数をそれぞれ抽出した（表８）。

＜付加物（内）＞では､「屋根の模様」（50.0%）、「煙突」（38.9%）、「窓のカーテン」（24.1%）などは多く描かれたが、少数しか出現しない付加物も多く見られた。出現頻度が低いということは、その付加物に描き手の特徴、言い換えれ

表５　＜付加物（内）＞の種類の出現度数（相対度数）（N=54）

＜付加物（内）＞の種類	出現度数（相対度数）		
	全体 (N=54)	男性 (N=22)	女性 (N=32)
屋根の模様	27 (50.0)	7 (31.8)	20 (62.5)
煙突	21 (38.9)	7 (31.8)	14 (43.8)
窓のカーテン	13 (24.1)	1 (4.5)	12 (37.5)
敷石・石段・階段・段差	9 (16.7)	7 (31.8)	2 (6.3)
ベランダ	7 (13.0)	3 (13.6)	4 (12.5)
花	7 (13.0)	0 (0)	7 (21.9)
喚起・排気口	3 (5.6)	0 (0)	3 (9.4)
門・柵	3 (5.6)	3 (13.6)	0 (0)
動物（犬小屋を含む）	3 (5.6)	2 (9.1)	1 (3.1)
アンテナ	2 (3.7)	2 (9.1)	0 (0)
郵便ポスト	2 (3.7)	0 (0)	2 (6.3)
インターホン	2 (3.7)	0 (0)	2 (6.3)
表札	2 (3.7)	0 (0)	2 (6.3)
雨どい	2 (3.7)	1 (4.5)	1 (3.1)
縁側	2 (3.7)	1 (4.5)	1 (3.1)
乗り物（車・バイク・自転車・飛行機）	2 (3.7)	1 (4.5)	1 (3.1)
国旗	2 (3.7)	2 (9.1)	0 (0)
外灯	1 (1.9)	0 (0)	1 (3.1)
傘	1 (1.9)	0 (0)	1 (3.1)
判別不能	1 (1.9)	1 (4.5)	0 (0)

表６　＜付加物（外）＞の種類の出現度数（相対度数）（N=8）

＜付加物（外）＞の種類	出現度数（相対度数）		
	全体 (N=8)	男性 (N=5)	女性 (N=3)
花（プランターを含む）	3 (37.5)	1 (20.0)	2 (66.7)
柵	1 (12.5)	1 (20.0)	0 (0)
郵便ポスト	1 (12.5)	1 (20.0)	0 (0)
石段	1 (12.5)	0 (0)	1 (33.3)
動物（犬小屋を含む）	1 (12.5)	0 (0)	1 (33.3)
木	1 (12.5)	0 (0)	1 (33.3)
山	1 (12.5)	1 (20.0)	0 (0)
太陽	1 (12.5)	0 (0)	1 (33.3)
テント	1 (12.5)	1 (20.0)	0 (0)
判別不能	1 (12.5)	1 (20.0)	0 (0)

表 7　＜付加物（両）＞の種類の出現度数（相対度数）（N=58）

＜付加物（両）＞の種類	出現度数（相対度数）		
	全体 (N=58)	男性 (N=8)	女性 (N=50)
花（花壇・プランターを含む）	35 (60.3)	2 (25.0)	29 (58.0)
木・植木・草・植物	31 (53.4)	3 (37.5)	27 (54.0)
屋根の模様	28 (48.3)	3 (37.5)	25 (50.0)
煙突	24 (41.4)	4 (50.0)	20 (40.0)
道	21 (36.2)	2 (25.0)	19 (38.0)
窓のカーテン	16 (27.6)	1 (12.5)	15 (30.0)
ベランダ	14 (24.1)	2 (25.0)	12 (24.0)
郵便ポスト	14 (24.1)	1 (12.5)	13 (26.0)
動物（犬小屋を含む）	14 (24.1)	0 (0)	14 (28.0)
乗り物（車・バイク・自転車・飛行機 ）	12 (20.7)	2 (25.0)	10 (20.0)
門・柵	10 (17.2)	1 (12.5)	9 (18.0)
太陽	3 (5.2)	0 (0)	9 (18.0)
人間	6 (10.3)	0 (0)	6 (12.0)
家具（机・椅子・テレビ・ソファー・電球）	5 (8.6)	0 (0)	5 (10.0)
敷石・石段・階段・段差	5 (8.6)	0 (0)	5(10.0)
雲	5 (8.6)	0 (0)	5 (10.0)
家・物置・小屋	4 (6.9)	0 (0)	4 (8.0)
洗濯物・物干し	3 (5.2)	0 (0)	3 (6.0)
遊具（砂場・滑り台・ブランコ）	3 (5.2)	0 (0)	3 (6.0)
山	3 (5.2)	0 (0)	3 (6.0)
インターホン	2 (3.4)	1 (12.5)	1 (2.0)
風見鶏	2 (3.4)	0 (0)	2 (4.0)
川（橋付き）	2 (3.4)	1 (12.5)	1 (2.0)
靴	2 (3.4)	1 (12.5)	1 (2.0)
アンテナ	1 (1.7)	1 (12.5)	0 (0)
縁側	1 (1.7)	0 (0)	1 (2.0)
喚起・排気口	1 (1.7)	0 (0)	1 (2.0)
外灯	1 (1.7)	0 (0)	1 (2.0)
表札	1 (1.7)	0 (0)	1 (2.0)
クリスマスツリー	1 (1.7)	0 (0)	1 (2.0)
果物	1 (1.7)	0 (0)	1 (2.0)
月・星	1 (1.7)	0 (0)	1 (2.0)
湖	1 (1.7)	0 (0)	1 (2.0)
アイスクリーム	1 (1.7)	0 (0)	1 (2.0)
岩	1 (1.7)	1 (12.5)	0 (0)
池（橋付き）	1 (1.7)	1 (12.5)	0 (0)
置物	1 (1.7)	1 (12.5)	0 (0)
魚	1 (1.7)	1 (12.5)	0 (0)
漫画のキャラクター（アンマンパン）	1 (1.7)	1 (12.5)	0 (0)
判別不能	4 (6.9)	2 (25.0)	0 (0)

表８　＜付加物（両）＞における、付加物（内）と付加物（外）の出現度数

付加物（両）の種類	付加物（内）			付加物（外）		
	全体	男性	女性	全体	男性	女性
花（花壇・プランターを含む）	11	0	11	24	1	23
木・植木・草・植物	3	1	2	28	2	26
屋根の模様	28	3	25	0	0	0
煙突	24	4	20	0	0	0
道	0	0	0	21	2	19
（窓の）カーテン	16	1	15	0	0	0
ベランダ	14	2	12	0	0	0
郵便ポスト	2	0	2	12	1	11
動物（犬小屋を含む）	0	0	0	14	0	14
乗り物（車・バイク・自転車・飛行機）	1	0	1	11	2	9
門・柵	1	0	1	9	1	8
太陽	0	0	0	9	0	9
人間	6	0	6	0	0	0
家具（机・椅子・テレビ・ソファー・電球）	4	0	4	1	0	1
敷石・石段・階段・段差	2	0	2	3	0	3
雲	0	0	0	5	0	5
家・物置・小屋	0	0	0	4	0	4
洗濯物・物干し	1	0	1	2	0	2
遊具（砂場・滑り台・ブランコ）	0	0	0	3	0	3
山	0	0	0	3	0	3
インターホン	2	1	1	0	0	0
風見鶏	2	0	2	0	0	0
川（橋付き）	0	0	0	2	1	1
靴	0	0	0	2	1	1
アンテナ	1	1	0	0	0	0
縁側	1	0	1	0	0	0
喚起・排気口	1	0	1	0	0	0
外灯	1	0	1	0	0	0
表札	1	0	1	0	0	0
クリスマスツリー	1	0	1	0	0	0
果物	1	0	1	0	0	0
月・星	0	0	0	1	0	1
湖	0	0	0	1	0	1
アイスクリーム	0	0	0	1	0	1
岩	0	0	0	1	1	0
池（橋付き）	0	0	0	1	1	0
置物	0	0	0	1	1	0
魚	0	0	0	1	1	0
漫画のキャラクター（アンマンパン）	0	0	0	1	1	0
判別不能	2	0	2	2	2	0

ば、描き手の独自性が表わされている可能性があり、内容面をも含めた吟味が必要である。

＜付加物（外）＞は、家の中ではなく、家の外にのみ付加物を描く在りようであるが、「花」、「木」、「山」、「太陽」、「動物」といった自然の風景や生き物が多く描かれている（表6）。街が都市化している現代では、住んでいる場所にもよるが、家の外に目を向けた場合、マンションやビル、道路などの建造物が目に入ることが多いのではないだろうか。しかし、「家を1軒描いて下さい」というだけの家屋画法の教示から、自然の風景や生き物が連想され描かれていることは、興味深い結果である。S-HTP法においも、課題以外の付加物として「山」、「道」、「草花」、「雲」、「太陽」、「動物」、「虫」、「鳥」、「チョウ」、「川」、「田畑」、「池」などが描かれており（三上・1995）、家屋画法とS-HTP法で共通して教示される「家」には、自然へとつながっていくためのきっかけや、基点としての作用があるのではないかと推測される。

＜付加物（両）＞では、付加物の種類により、家の外にも内部にも描かれる付加物もあれば、どちらか一方にだけ描かれる付加物があることがわかった。家の外にも内部にも描かれた付加物は、「花（花壇・プランターを含む）」、「木・植木・草・植物」、「郵便ポスト」、「乗り物（車・バイク・自転車・飛行機）」、「門・柵」、「家具（机・椅子・テレビ・ソファー・電球）」、「敷石・石段・階段・段差」、「洗濯物・物干し」であり、それ以外の付加物は、どちらか一方にだけ描かれていた。

「花（花壇・プランターを含む）」は、家の外に咲いていたり、家の中の窓際に花瓶が置かれ花が活けてある家屋画が多く見られた。「郵便ポスト」は、家の外にあるポストがほとんどであったが、家に取り付けてあるポストも少数だが見られた。「乗り物（車・バイク・自転車・飛行機）」は、ほとんどが家の外に描かれていたが、1例だけ家の中にある駐車場に車が描かれていた。門・柵は、家とは切り離して描かれることが多かったが、1例は家に付属するようにして立っていた。「家具（机・椅子・テレビ・ソファー・電球）」は、ほとんどが家の中に見られたが、1例は屋外に机と椅子が描かれていた。「敷石・石段・階段・段差」では、家の外部に敷石として置かれているものと、家に付属する石段、階段、段差として描かれているものとがあった。「洗濯物・物干し」では、家の外部に置かれた物干しに洗濯物が干されているものと、家の中に釣り下げられた竿に洗濯物がかかっているものとに分かれた。

このように、同じ付加物であっても、家の外に描かれる場合もあれば、家の中や家に付属して描かれる場合もあることがわかった。家と付加物の関係性という観点から家屋画を見た場合、例えば、門・柵が、家から離れて描かれている場合と、家に密着し付属して描かれている場合とでは、家の入り口までの距離の違いから、心理的な意味合いも異なってくる可能性が考えられる。ある付加物が家の外に描かれたのか、それとも、家の中や家に付属して描かれたのかを捉え、それぞれの関係性が意味するものを吟味していくことが必要である。

以上ここで行ってきたのは、家屋画を分類すること自体が目的ではなく、表4～8の結果に見られるように、描かれる付加物の在りようにより家屋画を分類することで、付加物が果たしている機能を明らかにすることである。家屋画法の先行研究では、付加物の内容面での考察が中心であったが、ここでは、関係性という観点を導入し、付加物がどこに描かれるのか、－家の外に描かれるのか、それとも、家の中に描かれるのか、家に付属して描かれるのか－、そして、家と付加物がどのように関係しているのか

ということに焦点を移すことで、家屋画に新たな意味合いを見出すことができるのではないだろうか。そこで次に、付加物の在りようとパーソナリティとの関連について検討をしていく。

3. 付加物の在りようとパーソナリティとの関係

付加物の在りようと描き手のパーソナリティの特徴との関連を検討するために、付加物の在りようの中でも特に男女の違いに着目し、＜付加物（なし）＞、＜付加物（内）＞、＜付加物（外）＞、＜付加物（両）＞のそれぞれにおいて、男女間でYG性格検査尺度得点の平均値の比較を行った（t検定）。その結果、＜付加物（なし）＞では、尺度C（気分の変化）に有意差が見られ（$t(21) = -2.169, p < .05$）、女性の方が平均値が高かった（表9）。＜付加物（両）＞では、尺度R（のんきさ）に（$t(56) = 3.015, p < .05$）、また、Sに（$t(56) = 2.934, p < .01$）それぞれ有意差が見られ、ともに女性よりも男性の方が平均値が高い結果となった（表10）。＜付加物（内）＞と＜付加物（外）＞では、有意差はみられなかった。

＜付加物（なし）＞を描く男性ではCの得点は標準点が3点の範囲（本研究ではこれを中群とする）にあり、平均的である。しかし、女性になると標準点が4～5点の範囲（これを高群とする）となる。Cとは、高得点になるほど気分が変わりやすく、感情的で驚き易い性質を表すが、気分の変化の大きい女性ほど、家屋画の必須部分を描くだけで付加物を描かないといえる。すなわち、＜付加物（なし）＞を男性が描いた場合は気分の安定と、女性が描いた場合は気分の不安定と関連しており、同じ付加物が描かれない家屋画でも、男女間でパーソナリティに違いがみられることがわかった。

次に、＜付加物（両）＞を描く男性、女性ともに、Rは高群に属していた。Rは高得点になるほど人と一緒にはしゃいだり、いつもなにか刺激を求めるなど気軽で活動的であるとされるが、家の外にも内部にも付加物を描くということは、このような性格特徴が関連していることがわかった。また、同じ高群であっても男性の

表9　＜付加物（なし）＞における男女間のパーソナリティの比較
（有意差のみられた尺度）

YG尺度	性別	出現度数	YG尺度得点の平均値	有意差
C（気分の変化）	男性	15	10.9（中群）	*
	女性	8	15.0（高群）	

※ ***p<0.001, ** p<0.01, *p<0.05

※ YG性格検査尺度の標準点が3点を（中群）、4～5点を（高群）とした。

表10　＜付加物（両）＞における男女間のパーソナリティの比較
（有意差のみられた尺度）

YG尺度	性別	出現度数	YG尺度得点の平均値	有意差
R（のんきさ）	男性	8	17.6（高群）	**
	女性	50	12.2（高群）	
S（社会的外向）	男性	8	17.1（高群）	**
	女性	50	13.8（中群）	

※ ***p<0.001, ** p<0.01, *p<0.05

※ YG性格検査尺度の標準点が3点を（中群）、4～5点を（高群）とした。

方が得点が高く、男性の方がよりこの特徴がみられる傾向にある。S も、＜付加物（両）＞を描く男女間で有意差のみられた尺度であるが、S が高得点であるほど、誰とでもよく話し、社会的、対人的接触を好む性質を示すが、男性は高群、女性は中群にあることから、家の外にも内部にも付加物を描く男性は、社会的に外向的であることが特徴である。

以上ここでは、家屋画に描かれる付加物の在りようについて、YG 性格検査を用いて、パーソナリティ特徴との関連から検討を行った。付加物が家の外に描かれるのか、それとも内部に描かれるのかということは、見た目の違いだけではなく、パーソナリティの特徴といった心理的な要因も影響を及ぼしていることが示された。

4. まとめ

家屋画法では、家屋画に描かれるアイテムが重要な機能を果たしていることが、これまでの研究を見ていく中で考えられたが、アイテム自体を主たるテーマとして取り上げた研究は、行われてこなかった。

家屋画に描かれるアイテムに関しては、井上（1979）が家屋画の boundary 指標において、開指標の中に、「縁側・ベランダ・テラス」や「エントツから煙が出る」を、閉指標の中に「カーテンあり」や「雨戸あり」入れているが、「縁側」、「ベランダ」、「煙突」、「カーテン」、「雨戸」といったアイテムは、本研究の付加物の在りようでは、ともに＜付加物（内）＞に当てはまるものである。このことは、家屋画に描かれるアイテムに関しては、描き手の何を知りたいのかという問題意識に沿ってさまざまに分類したり区分することができることを示している。井上の研究では、家屋画に表される自我境界を知ることが研究の目的であった。本研究では、アイテムを付加物という観点から捉え直して、付加物の種類や在りように焦点を当てた。その際に、先行研究である高橋（1974）、三上（1995）、山森（2003）、三溝（2005）で分析された家屋画を見ていく中で、付加物には、家の外に描かれる付加物、家の中に描かれる付加物、家に付属して描かれる付加物があることがわかり、家と付加物の関係性が、見た目の違いだけではなく、描き手の心理的要因と関与しているのではないかとの仮説が考えられた。そこで、この問題意識に照らし合わせて家屋画を付加物の在りようから分類し、男女差を中心に検討した結果、パーソナリティの違いが反映していることが示された。今後は、さらなる調査研究や事例研究などを通して、この問題を掘り下げて検討していく必要があると考えられる

引用文献

Bachelard, G. (1957)：La poetique de l'espacse. Press Universitaires de France.（岩村行雄訳（1969）：空間の詩学　思潮社）

Bollnow, O. F. (1963)：Mensch und Raum. W. Kohlhammer GmbH, Stuttgart.（大塚恵一他訳（1978）：人間と空間　せりか書房）

Buck, J. N. (1948)：The H-T-P technique：A qualitative and quantitative scoring manual. *Journal of Clinical Psychology*, **4** , 317-396.（加藤孝正・荻野恒一（訳）（1982）：HTP 診断法　新曜社）

古野裕子（2005）過換気症候群を抱える人のコーピング・スタイルおよび心理的構えについての一考察　心理臨床学研究 , **23**（1）, 64-74.

井上亮（1979）：家屋画 2 面法による boundary 概念の検討－精神分裂病者を対象として－　日本教育心理学会第 21 回大会発表論文集

井上亮（1984）：風景構成法と家屋画二面法－精神分裂病者の“棲まい”方からみた“風景”試論－　山中康裕（編）　中井久夫著作集別巻 1 H・NAKAI 風景構成法　岩崎学術出版社　pp163-187.

皆藤章（1994）：風景構成法－その基礎と実践－　誠

信書房
三上直子（1995）：S-HTP 法－統合型 HTP 法の臨床的・発達的アプローチ－　誠信書房
森あずさ・高木理恵（2008）：児童養護施設における S-HTP 法の描画特徴について（その 1）－“付加物の有無”という観点から施設児の臨床像の違いをとらえる－　日本心理臨床学会第 27 回大会発表論文集
中井久夫（1971）：描画を通してみた精神障害者とくに精神分裂病者における心理的空間の構造　日本芸術療法学会誌 , **3**, 37-51.
三溝雄史（2005）：遠近法表現を通して見た家屋画における視座の研究－ YG 性格検査との比較から－　日本芸術療法学会誌 , **36**（1,2）, 73-84.
佐々木玲仁（2008）：風景構成法における付加アイテムの機能について　日本箱庭療法学会第 22 回大会プログラム／発表論文集
高橋雅春（1974）：描画テスト入門－ HTP テスト－　文教書院
徳田完二（1982a）：Anorexia Nervosa に関する一研究－描画テストを用いて－　京都大学大学院修士論文
徳田完二（1982b）：Anorexia Nervosa における自我境界の検討－描画法を用いて－　日本心理学会第 46 回大会予稿集
徳田完二（2007）：心理臨床におけるいくつかの技法的工夫－多面的家屋画法、イメージ呼吸法、体験グラフ化法－　立命館大学心理・教育相談センター　心理教育・相談センター年報 , **6**, 67-73.
山森路子（1997）：心身症者の人格構造に関する一研究－質問紙と描画による boundary の検討から－　京都大学大学院修士論文
山森路子（2003）：バセドウ病患者の心理学的病態について　京都大学大学院博士論文
山中康裕（1976）：早期幼児自閉症の分裂病論およびその治療論への試み　笠原嘉（編）　分裂病の精神病理 5　東京大学出版会　pp147-192.

Abstruct

A Study of the House-Drawing-Test from the Viewpoint of the Additional item: on the Subject of a Kind and the Drawn Pattern of the Additional Item

Takeshi SAMIZO

The purpose of this study is to discuss the House-drawing-Test from the viewpoint of the additional items. In this study, 144 normal adults were chosen as the subjects. The subjects were asked to draw a house which they imagined (House-Drawing-Test).

All kinds of additional items drawn in the house-drawing were extracted. This study compared men with women on additional items with the χ^2-test, and the result was interpreted.

House-drawings were classified into four types by the drawn pattern of the additional items; ① additional ones drawn neither inside nor outside the house, ② additional ones drawn inside the house, ③ additional ones drawn outside the house, ④ additional ones drawn both inside and outside the house. In each drawn pattern of the additional items, one of additional items drawn in the house-drawing was extracted.

The subjects were asked to answer the questionnaire on the YG personality inventory. The YG personality inventory was used, because it has been studied by comparison with projective technique, and it can be widely interpreted. Between men and women in each pattern of the additional item, twelve measures on the YG personality inventory were compared with the *t*-test, and the result was interpreted. As a result, some measures on the YG personality inventory influenced the difference between men and women. It is considered that the pattern of the additional items was related to the personality.

In the following research, the problem of the relation between the additional items and personality would be deeply investigated through the accumulation of the research and case study.

Key words : House-Drawing-Test, additional item, YG personality inventory